

玄海町史

上卷



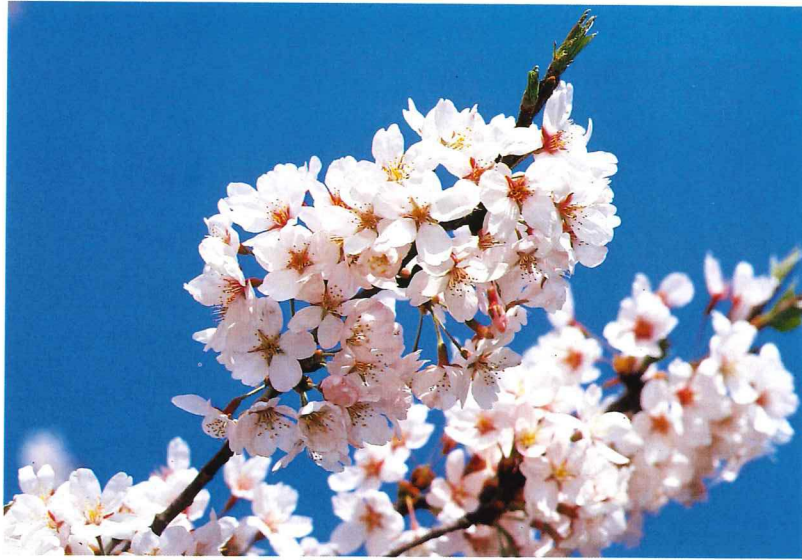
町 章 (昭和58年5月7日制定)  
玄海町庁舎 (左/議会棟・右/行政棟)



玄海上空から見た玄海町北部地区 (撮影昭63.4.15)



南部上空から見た玄海町南部地区 (撮影昭63. 4 .15)



町花 (さくら) (昭和61年5月20日指定)



町木 (けやき) (昭和61年5月20日指定)



町民憲章碑

## 町民憲章

私たちは、豊かで住みよい  
魅力と活力のある町をめざして  
ここに町民憲章を定めます

一、心のふれあう

住みよい町をつくりましょう

一、仕事に誇りをもち

活力ある町をつくりましょう

一、豊かな自然を愛し

やすらぎのある町をつくりましょう

一、心と体をきたえ

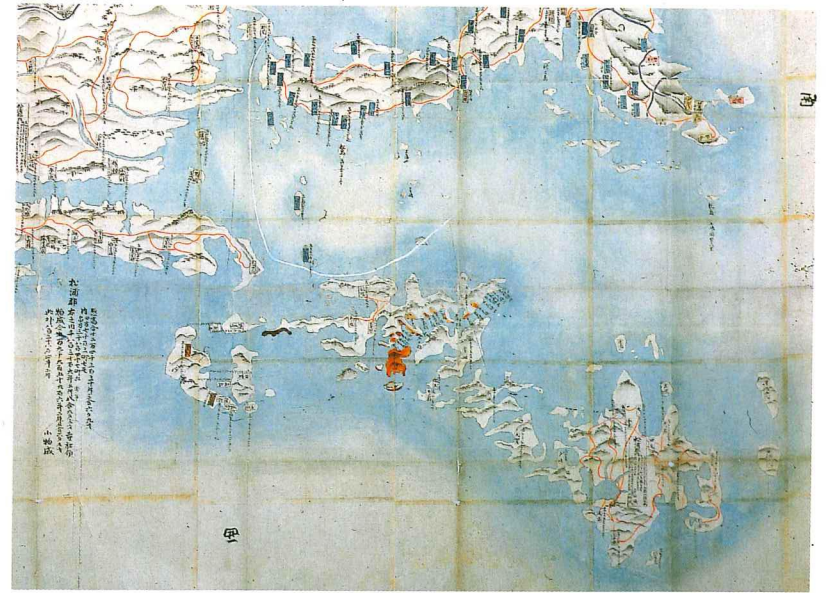
楽しい町をつくりましょう

一、希望に満ちた

文化の町をつくりましょう

玄海町





慶長肥前国絵図（上・唐津藩領部分図，下・平戸島・五島列島・西彼杵半島）（佐賀県立図書館蔵）

## 発刊のごあいさつ



玄海町長 日高一男

私たちの郷土玄海町は、昭和三十一年九月、旧有浦村と旧値賀村の合併により、町制を施行し、玄海町として発足し、翌三十二年十二月には、旧切木村の一部四集落を吸収合併いたしました。以来、三十年が経過いたしました。これを記念して、かねて玄海町史編集作業を進めていきましたが、ここによりやく町史上巻の発刊をみるにいたりましたことは、誠に意義深く、町民の皆様と共に喜びに堪えませぬ。

本町においては、昭和六十一年九月に町民憲章が制定され、「豊かで住みよい、魅力と活力のある町」を目指し、二十一世紀を展望した町づくりに努力をいたしておりますが、このような時期に、原始から江戸末期までを含めた各時代の歴史を記述した町史上巻が発刊される意義は、極めて大きいものがあると存じます。

将来へ向かっての展望は、過去を知り、現在を知ることなくしては不可能であります。わが郷土の先人

達が、いかにしてこの地に住みつき、どのようにして生活し、どのような経過をたどって、発展してきたか、今日の玄海町が築きあげられるまでの、移り変わりはどういふものであったであろうか、私達には深い関心が持たれるものであります。「温故知新」の言葉がありますように、新しい発展の道を探るためにも、これは大変大切なことであろうと思います。静かに先祖の残された足跡を見つめて、さらに前進したいと思いを深くするものであります。

何分にも長い歴史の流れを研究するには、膨大な資料の収集と分析、史跡を現地に踏査しての史実の調査研究が必要です。執筆委員諸先生方々には、並々ならぬご努力ご苦勞があったことと思ひます。ここに改めて敬意と、感謝の念を捧げるものであります。

なお現在、「玄海町史下巻」の執筆、調査が続行されています。これは明治、大正、昭和（昭和六十年未まで）の三時代にわたる近代、現代史であります。この下巻と合わせて「原子力の町」、わが郷土の貴重な史料として、記録を後世に伝え継ぎ、多くの人々に親しまれ、愛読され、郷土愛の芽生えの一助ともなり、またわが町発展のために、意義ある資料として活用されますならば、この上もないしあわせと存じます。

また各種資料のご提供をいただきました皆様に対しましても、心から感謝の意を表し、発刊のごあいさつといたします。

昭和六十三年十二月吉日

## 発刊によせて



玄海町議会議長 中山 穠

玄海町史上巻の発刊を心からお喜びいたします。

昭和三十一年九月、玄海町町制施行以来、着実な町勢の発展をみておりますが、これはひとえに、町民皆様の日常のご努力と町政に対するご理解ご協力賜ものと存じ、感謝申し上げます。

かねて私は、町政の進展と安定を考えると、これからの町づくりのために、是非町史の発刊を提言して参りましたが、日高一男町長の代になって、ようやくこの町史編集に着手され、また町議会としても全面的に協力を続けて参りました。この間、編集作業の進展については曲折がありました。関係者のご努力によって今日、上巻の発刊をみる事が出来たことを喜んでゐる次第であります。

この町史に親しみながら、先人の歴史を知り、また新しい文化を創造する資料として、町政に過りない



よう努力して行きたいと念願しております。  
町民の皆様もこの本を手近な読みものとして、  
古き時代を知り、町民対話の資料になればとも思っ  
ます。

町史の発刊を喜びご挨拶いたします。

昭和六十三年十二月吉日

### 町制施行三十周年を迎える

昭和六十一年九月二十九日、町制施行三十周年の記念式典が盛大に挙行された。これを機に、さらに将来に向けての飛躍が、力強く決意された。



- 一、この上巻は地理、動植物などの自然誌、原始、古代、中世、近世史からなる。
- 一、記述はすべて口語文とした。ただし、文献引用文は出来るかぎり原文のままとし、送り仮名をつける程度にした。
- 一、原則として昭和五十六年三月、国語審議会が答申した常用漢字表による字種、字体、音訓、語例などを用いることにした。ただしそのため、語意が十分でないと思われるものには古い用字を使い、振り仮名を付した。
- 一、送り仮名は昭和四十七年六月、同じく答申された「改定送り仮名の付け方」によった。
- 一、仮名遣いは昭和六十一年三月答申された「改定現代仮名遣い」に基づいた。
- 一、数字はすべて「読み数字」の記述とした。ただしそのため、かえって読みづらくなるもの、あるいは並記、列記する方が理解しやすいものは「重ね数字」の記述とした。
- 一、昭和五十四年六月、元号法成立、公布、施行された精神に基づいて、本書は日本年号を基本に使い、該当西暦年をカッコでつけた。
- 一、南北朝時代の年号は両朝年号を並記し、これに西暦年を付記した。
- 一、日本年号より中国、韓国年号が適当と思われるものには、当該年号を表記し、日本年号、西暦年を付記した。
- 一、西暦年はずべて「重ね数字」とした。日本年号でもカッコ内のものはすべて重ね数字とした。
- 一、現在使われていない歴史用語、文献史料・資料名などは、文末に「注」としてその意味を略記した。また自然誌関係においての文献資料名は文末に列記した。
- 一、数行にわたる古文書引用文には文頭に「文末に」を付し、一般の記述文と紛らわないようにした。
- 一、下巻は近代（明治、大正）、現代（昭和）史の記述となるが、成文中、近世史的面的記述も出てくると思われる。殊に集落調査を終えないまま、上巻刊行となったので、集落内に潜在する中、近世史的史料は、下巻の中に当然記述されることになるかと付記しておきたい。

## 玄海町史目次

町章・玄海町の庁舎	1
玄海上空から見た玄海町北部地区	2
南海上空から見た玄海町南部地区	4
町民憲章碑	6
町花（さくら） 町木（けやき）	7
国宝 肥前風土記 肥前松浦党有浦文書の部分	8
国宝 翰苑の部分（上・下）	9
慶長肥前国絵図（上・下）	10
発行のごあいさつ	11
発行によせて	13
町制施行三十周年を迎える	15
凡例	16
目次	17
第一編 わがふるさと玄海町	18
第二編 はるかなる昔	22
第三編 武家政治の昔	29

目次

第一編 わがふるさと玄海町

第一章 美しい自然	3	第四項 佐賀の地名	17
第一節 概説	3	佐賀県の起り	
第二章 地名の起り	4	第五項 唐津の地名	18
第一項 日本国名	5	第六項 佐賀の地名	19
日本国の領土／日本の国号／国旗・日の丸		値賀村	
第二項 肥前国名	8	第七項 有浦の地名	21
肥前国名の誕生／肥前国の移り変わり／駅と烽		有浦村	
第三項 松浦の地名	13	第八項 玄海町誕生	23
松浦郡の地名／松浦郡の分轄／松浦に残る古歌		町制施行三十年／玄海の呼称	
		第九項 わが町の自然	26
		第一節 位置	26
		第二節 地理的位置	26

二 数理的位置	28	一 主な河川	41
三 経済的社会的地位	28	ア志礼川 イ八ッ田川(前田川) ウ浜野浦川 エ石田川 才有浦川 カ座川(切木川)	
四 文化的歴史的位置	28	二 主な山・峠	43
第一項 地形および地質	31	ア城ノ山 イ高江山 ウ天狗岳 エ摺鉢山 オ野高山 カその他 キ峠	
わが国の地体構造	31	三 主な岬・湾・入り江・島・瀬	43
佐賀県の概要	32	ア値賀崎 イ外津浦 ウ飯屋湾 エ三島	
東松浦半島(上場台地)の概要	33	四 池・湖沼	48
本町の概要	35	五 その他の地形	48
第二項 地理的位置	31	一 本県の土壌	49
(一)上場台地面 ア北部ブロック台地面		二 東松浦半島の土壌	49
地域 イ東部ブロック台地面地域 ウ南部ブロック台地面地域		三 本町内の土壌	49
(二)河谷(侵食谷)と下流沖積地域 エ志礼川河谷とその沖積地域 才有浦川河谷とその沖積地域 カ座川(切木川)河谷とその沖積地域		四 土壌	49
(三)沿岸部地域 キ外津地区 ク飯屋地区 ケ牟形地区		五 気象・気候	50
第三項 主な地形物 河川・山・峠・岬・島・湾・瀬・池など	41	一 わが国の気候	50

二 佐賀県の気候 ..... 51

三 本町の気候 ..... 53

第六項 面積と地目 ..... 54

一 上場の土地利用状況 ..... 54

二 本町の土地利用状況 ..... 58

第七項 集落と人口 ..... 59

一 集 落 ..... 59

旧値賀村地域／旧有浦村地域／旧切木村地域

二 人 口 ..... 71

(一)概観 (二)人口の推移 (三)人口構成

第二章 美しいのち ..... 83

第一節 わが町の人々 ..... 83

玄海町に昔からある集落名

第一項 集落の歴史 ..... 84

玄海町内にも旧石器時代人／有史時代に入って／近世から現代まで

第二項 集落の名字 ..... 93

第二節 わが町の動植物 ..... 103

第一項 玄海町の水中小動物 ..... 103

一 玄海町海辺の小動物 ..... 103

はじめに

(1)玄海町の海岸 泥干潟／岩礁と岩場

(2)海岸に見られる主な小動物 外津湾の磯／有浦川川口付近の干潟／高岩鼻付近の磯 (3)結び (4)海岸の小動物の呼び名(方言)

二 玄海町の川・池の小動物 ..... 123

はじめに

(1)有浦川水系小動物 (2)轟木地区の小動物

第二項 玄海町の野鳥 ..... 127

はじめに

一 玄海町の野鳥の概観 ..... 127

二 玄海町の野鳥の種類 ..... 128

第三項 玄海町の植物 ..... 158

概況

一 木本類 ..... 159

(1)玄海町樹木林の特徴 (2)巨木の部 (3)珍木の部

二 草本類 ..... 169

(1)山野、路傍の植物 (2)海岸性の植物 (3)その他の植物 コケ類／シダ類／淡水草

三 社寺林の植物相 ..... 173

(1)値賀神社(今村)の植物相 (2)大歳神社(浜野浦)の植物相 (3)大山祇神社(大園)の植物相 (4)天満神社(大園)の植物相 (5)三島神社(石田)の植物相 (6)天満神社(有浦上)の植物相 (7)常楽寺(有浦上)の植物相 (8)庚申堂(諸浦)の植物相 (9)若宮八幡神社(諸浦)の植物相 (10)金比羅神社(長倉)の植物相 (11)大山祇神社(長倉)の植物相 (12)鎮守神社(湯野尾)の植物相 (13)諏訪神社

四 社寺林以外の植物相 ..... 184

(1)天狗岳のマテバシイ林 (2)路傍の植物相

五 玄海町植物の植生図 ..... 188

六 玄海町植物方言 ..... 189

第四項 玄海町海藻 ..... 193

はじめに

一 海藻の分布 ..... 193

(1)水平分布(2)垂直分布

二 玄海町海藻 ..... 195

(1)緑藻類(2)褐藻類(3)紅藻類(4)海藻(5)その他の藻類

三 海藻自生場所 ..... 200

四 利用される海藻 ..... 200

五 海藻の漢字 ..... 202

第五項 玄海町の陸上動物 ..... 203

## 第二編 はるかなる昔

はじめに	204
一 両生類	204
二 ハ虫類	207
三 ホ乳類	209
四 昆虫類	212
(1)玄海町のチョウ(2)玄海町のトンボ(3)玄海町の甲虫(4)玄海町のセミ(5)玄海町の直翅類(6)玄海町の蛾(7)農業の害虫	

第六項 玄海町の魚類	226
はじめに	
一 玄海町の海水魚	227
二 玄海町の淡水魚	234
三 玄海町の漁法	235
四 玄海の魚の方言	237
五 魚名の漢字	240
六 魚にまつわることわざ	243

### 第一章 原始のころ

第一節 概説	247
第二節 日本国土の誕生	249
第一項 地球の歴史	249

第二項 日本列島の誕生	250
第三項 日本国生みの神話	251
第三節 旧石器時代の人々	252
第一項 猿人から新人まで	252
一 一番古い人類の祖先は	253

#### 最古の類人猿／石器文化

二 原人の文化	255
猿人から原人へ	
三 旧人の文化	255
原人から旧人へ	
四 新人の文化	256
旧人から新人へ	
第二項 日本の旧石器文化	256
一 大陸から陸橋を渡って	256
大陸とつながっていた日本列島	
二 自然と人間	257
日本列島の旧石器人	
三 旧石器人の集団社会	259
上場の旧石器人集団	
四 旧石器時代の上場	259
上場は旧石器時代の遺跡の宝庫	
第三項 旧石器が発見されるまで	261
一 天から降ってきた矢の根石	261

#### 大和王朝が石器発見の報告で安全祈願

二 科学的研究のスタート	262
日本の考古学の始まり	
三 赤土の中から発見された石器	263
行商の青年が旧石器発見	
第四項 原日本人の遺跡	264
日本列島最古の石器	
第五項 上場台地の主な遺跡	265
一 玄海町内の主な遺跡	265
(1)日の出松遺跡群 (2)普恩寺遺跡群	
(3)花ノ木遺跡群 (4)牟田・畦木場遺跡	
二 周辺の主な遺跡	266
(1)原遺跡 (2)磯道遺跡 (3)生石遺跡	
第四節 縄文時代の人々	268
第一項 新しい自然環境と縄文人	268
一 土器と弓矢の二大創造	269
土器の発明／弓矢の発明	
二 縄文文化の発展	270

第二項	縄文時代各時期の生活と文化	271
一	草創期の生活と文化	271
	日本最古の土器	271
二	早期の生活と文化	272
	縄文人は芸術家／死者の埋葬／土器製作技術	272
三	前期の生活と文化	273
	集落の始まり／縄文人の労働／生活の変化と土器の変化／西唐津海底遺跡・朝鮮半島と交流	273
四	中期の生活と文化	275
	縄文中期の人口／焼畑農業開始／伸展葬の増加／九州の阿高式土器文化	275
五	後期の生活と文化	278
	縄文人の寿命／製塩の始まり／縄文人の信仰／土器の変化／照葉樹林文化の伝来	278
六	晩期の生活と文化	280

第三項	縄文文化の二つの方向	281
	水稻農耕の渡来	281
第四項	上場地域のおもな遺跡	282
一	玄海町内の主な遺跡	283
	(1)大橋遺跡 (2)普恩寺遺跡群 (3)牟田遺跡 (4)花ノ木遺跡 (5)日の出松遺跡 (6)大鳥遺跡	283
二	上場台地、周辺のおもな遺跡	284
	(1)牟田辻遺跡 (2)西唐津海底遺跡 (3)百田洞穴遺跡 (4)赤松海岸遺跡 (5)小川島貝塚遺跡 (6)菜畑遺跡 (7)中野遺跡 (8)押川遺跡	284

第五節	弥生時代の人々	288
第一項	激動の時代	288
第二項	新しい大陸文化	288
一	青銅器	289
二	鉄器	290
第三項	渡来した弥生人	290

第四項	土器	292
一	土器の伝統	292
二	農民の土器	292
第五項	生産力の発展と富の蓄積	293
第六項	郷土の弥生人	294
一	弥生時代の上場	294
二	高地性(戦闘的)集落遺跡	294
第七項	周辺の遺跡	295
一	柏崎貝塚	295
二	宇木汲田遺跡	295
三	葉山尻支石墓	296
四	桜馬場遺跡	296
五	大友遺跡	297
六	押川遺跡	297
七	波戸鳥ノ巣遺跡	298
八	八ッ田浦遺跡	298
九	浅湖遺跡	298

第二章	古代のころ	299
第一節	古墳時代	299
第一項	古墳文化	299
一	古墳について	299
二	古墳文化の変化	300
三	古墳の社会的意義	301
第二項	北九州の古墳文化	301
一	畿内から北九州へ、松浦へ	301
二	松浦の古墳時代の文化と生活	304
三	新しい焼き物―須恵器	306
四	古墳文化終末へ	307
第三項	玄海町の古墳	308
一	先部古墳群	308
	(1)一号墳 (2)二号墳 (3)三号墳	308
二	野田古墳	309
三	普恩寺古墳	309
四	岩盛山古墳群	310

五	鬼塚浜ノ田古墳	310
六	大橋遺跡	310
第二節 大和朝廷の成立		
第一項	古墳時代の歴史概説	311
第二項	倭国と邪馬台国	314
	倭国ノ邪馬台国	
第三項	魏志による末盧国	315
	末羅国	
第四項	古代の伝承説話	316
一	神武天皇伝説	316
	神武天皇	
二	景行天皇・日本武尊伝説	318
	景行天皇九州親征ノ日本武尊熊襲征伐	
三	神功皇后伝説	319
四	応神天皇伝説	320
五	築紫国造磐井の反乱	321
	磐井軍敗れる	
六	松浦佐用姫物語	323

第三節 飛鳥・白鳳・奈良時代		
第一項	仏教の伝来と蘇我物部両氏の争い	326
一	仏教の伝来	327
二	聖徳太子が仏教振興	328
第二項	大化の改新	329
一	蘇我氏滅ぶ	329
二	大化年号を制定、行政改革	330
第三項	白村江の戦いと百済の滅亡	331
	百済滅ぶノ百済救援軍派遣ノ日清軍全滅ノ新羅軍の来寇におののく	
第四項	律令国家体制への移行	336
	国造制は律令体制にも残った	336
	松浦地方の範囲ノ国造制ノ国司、郡司制	
第五項	肥前国の成立	338
一	肥前国の国司、郡司	339
	松浦郡の郡司	
二	松浦郡の郷・駅・官道	342

三	松浦郡の郡衙	344
四	条里制と班田収授制	346
	松浦郡にも条里制	
五	住民の生活	348
	重税に苦しむ公民ノ松浦の特産物ノ松浦諸島に牛馬の牧ノ天災と貧苦に泣いた庶民	
第六項	大化の改新と大陸交渉	353
	新羅に圧迫された任那・百濟ノ新羅、隋と同盟し日本の圧力を妨げるノ遣隋使の初めノ中大兄皇子の政治改新と東北経営ノ百濟国救済戦ヘノ日本、防備を強化	
第七項	律令体制下の大陸との交渉	358
	大宰府の設置ノ危険の大きい遣唐使ノ大陸渡航船の船亭となつた松浦の港浦海外賊の侵入	
第八項	海外賊の侵入	366
	防人を配置ノ玄界灘に遭難した白水郎の悲劇ノ吉備真備、怡土城を築クノ擬	

一	肥前風土記	372
二	肥前風土記と松浦	372
三	肥前風土記	372
二	値嘉嶋と値賀	372
	小近と大近ノ上近下近と値嘉嶋	
三	その他の古代の地名	374
第十項	万葉の歌と松浦	375
	大伴旅人と山上徳良ノ名歌の素材の松浦佐用姫物語ノ遣新羅使の松浦の歌	
第十項	藤原広嗣の反乱と鏡神社の創立	381
	天災地変の奈良時代ノ天然痘大流行すノ広嗣、九州に左遷され反逆を企てるノ板櫃の戦、広嗣討伐に大野東人ら向うノ広嗣、松浦の橋浦で殺されるノ飯屋・打上の広嗣の伝説ノ浜玉町五反田の広嗣の伝説ノ玄昉左遷ノ吉備真備の左遷ノ鏡神社と弥勒知識寺ノ大村神社ノ上松浦の古代の大社	

第四節 平安時代

第一項

律令国家体制の崩壊と荘園の成立  
貴族・寺院の権力が荘園を拡大させる／  
口分田も荘園に組み入れられる／荘園  
の組織

第二項 肥前国の荘園

松浦荘は治承二年に成立

- (1) 神崎御荘 (2) 川副荘 (3) 松浦荘
- (4) 宇野御厨荘 (5) 見留加志荘 (6) 草野荘
- (7) 大野荘 (8) 鏡荘 (9) 相知荘
- (10) 神埼荘 (11) 河副荘 (12) 坊所保
- (13) 塚崎荘 (14) 伊佐早荘 (15) 三重屋庄

第三項

弘法大師伝説

留学僧として唐に渡った空海／空海筑紫に滞在す／上松浦の空海伝説

第四項

荘園と武士の発生

藤原氏の貴族政治／源平二氏の出現

一 武士の勃興

都おちの貴族ら地方に土着す／天下り

受領らと土着民らが武力で争う

二 承平・天慶の乱

民衆の味方平将門／海賊の頭目藤原純友

第五項

遣唐使廃止と大陸との交通

菅原道真、遣唐使を廃止／大陸商人、松浦の沿岸に寄港／真如法親王、斑島・神集島に寄港／僧成尋、加部島で唐商船に乗る

第六項

刀伊の襲来と松浦郡

新羅賊、松浦沿岸を荒す／新羅賊大挙して対馬を襲う／刀伊賊、日本に侵寇／前肥前介源知ら刀伊賊を撃退す／土着の武士、刀伊撃退の主力となる

第七項

松浦党

一 松浦党の発生

一字諱の源氏の武士、松浦に定着す／松浦源氏の系譜の考証／渡辺綱の鎮西西下説／一字諱の源氏、松浦久以前に

土着す／一字諱・三つ星紋使用は松浦源氏の特権／松浦党祖松浦久の実像と虚像／上松浦まで及んだ松浦久の支配権／松浦久の譲り状の事情

二 松浦荘の変遷

源大夫久の上松浦の支配範囲

松浦久の所領譲与の状況／松浦久の二男持は波多氏の祖か

四 源大夫久の分脈

五 源平争乱と松浦党

松浦一族は平家方／壇之浦合戦に松浦党、源氏に寝返る／松浦党、競って鎌倉御家人となる

第三編 武家政治の昔

第一章 中世のころ

第一節 中世の概説

第二節 鎌倉時代

第一項 鎌倉時代とは

第二項 鎌倉上期の松浦諸家

頼朝、荘園に地頭をおく／松浦の御家人／松浦執行授と鶴田馴の争論



第三項 独立志向の鎌倉上・中期の松浦諸家 …… 479

第四項 鎌倉期における守護・地頭追捕使 …… 482

相続にも職務の違いがある／均分相続が一族の数を増やした／地頭も苦勞した

第五項 元寇と松浦党武士団 …… 484

蒙古、国書を遣わし日本の屈伏を求め／幕府、蒙古襲来を覚悟し警固を命ず／当初の防備は簡單／文永の役、蒙古・高麗四万の兵で襲来／蒙古軍ら松浦沿岸を侵す、被害甚大／蒙古軍ら博多に上陸、一日の戦いで博多を去る／蒙古軍船引き揚げる／文永の役の松浦党武士団の活躍

第六項 弘安の役と石築地 …… 495

元、再び日本制圧を企てる／北九州沿岸に防塁を築く／松浦沿岸の石塁と元寇防塁の関係

第七項 弘安の役と松浦党武士団の活躍 …… 499

弘安の役／東路軍、博多に上陸出来ず／松浦党勇戦す／少武景資ら巻岐で戦う／江南軍十万、伊万里湾に侵入す／日本軍、伊万里湾の防備につく／元軍に対抗した松浦党の動員力／江南軍、伊万里湾に滞留す／元軍、伊万里湾で台風に遭い全滅す／日本軍、殘敵を全滅す／元寇に活躍した松浦武士／元寇再来に備え警固を継続／元、日本侵寇をやめず

第八項 元寇以後松浦諸家の動き …… 514

一 佐志氏 …… 514

佐志氏の動向／佐志氏の繼承の問題点／佐志房の繼承争い／植賀村の初見

二 神田氏 …… 520

神田氏の動向

三 岩門合戦と松浦党 …… 521

岩門合戦に松浦党勲功地を得る／「松浦党」の初見

第九項 初期の倭寇と松浦党 …… 524

大陸商人、基地を松浦沿岸に設ける／倭寇の初見／倭寇の統出に大宰府悩む／鏡社の草野氏、倭寇に関係す

第三節 南北朝・室町時代 …… 529

第一項 南北朝の動乱 …… 529

後醍醐の野望と陰謀／天皇笠置山で挙兵、皇統二統並立／足利尊氏寝返り、六波羅壊滅／鎌倉幕府滅ぶ

第二項 九州における北条支配の終結 …… 532

菊地武時ら九州探題を襲い敗北す／植賀氏ら上松浦一族彼杵の江串を攻む／上松浦一族大友に従い、九州探題を討つ／相知一族ら所領安堵のため上洛

第三項 建武中興の失敗と動乱への道 …… 536

武士の不平が尊氏の野望を助ける／尊氏返逆の兵を率ぐ、南北朝動乱幕明け／義貞敗れ武士は武家方、宮方に分かれる／尊氏、京都で敗れ九州に走る／尊

第四項 南北朝時代の松浦党 …… 544

南北朝時代始まる／松浦一族、党を結び戦いにぞむ／松浦党上洛して戦う／石垣山の合戦／懐良親王九州に下る、九州南朝勢いを振う

第五項 南北朝と松浦党 …… 557

筑後竹井城攻防戦に佐志氏奮戦／有浦の領主・松浦波多有浦源藏人披／楠正行ら戦死／武家方、尊氏派と直義派に分かれる／南朝方京都を回復するが破れる／相知秀、武藏国金井原で戦死／南朝方と將軍方との京都争奪戦／將軍義満南北朝を合体

第六項 南北朝後期の松浦党 …… 563

南朝方、探題方、佐方の三者対立／上松浦は探題方、下松浦は佐方に／直冬

ら菊池に下る／床河の戦い、佐志披負傷す／小城攻防、相知秀負傷／上・下松浦党南朝に下る／大保原の戦い、菊池勝つて九州を制す

第七項 探題斯波氏経の九州入りと松浦党 …… 576

佐志披親子長者原の戦いに加わる／菊池、九州全土の覇権を握る／波多下野守広、上松浦の主導権を握る／菊池、長門で大内義弘に撃破される

第八項 探題今川了俊と松浦党 …… 580

今川了俊、九州探題として九州に下る／今川仲秋呼子に上陸／少式冬資、探題今川了俊に反抗を示す／了俊勢力を回復し、菊池・少式両者を討つ／波多下野守広、再び降伏す。佐志祝、耳納山に戦死す／南北朝戦乱終わり、探題今川了俊九州を去る

第九項 南北朝期に於ける佐志氏の動向と松浦党一揆 …… 586

上松浦の松浦一族の首領は佐志氏／鎌

倉・南北朝時代の佐志氏の系譜／値賀郷は佐志分家佐志寺田の所領／有浦郷の地名の初見は佐志勤の讓状にでる

第十項 佐志一族の結合 …… 592

松浦党一揆の芽ばえ／南北朝初期出陣の催促・恩賞も一族あてとなる／一族一揆の法が定まる／佐志披の波多の統合

第十一项 南北朝期の倭寇・歳遣船・大陸の倭寇 …… 600

一 朝鮮半島へ倭寇進出 …… 600  
遣唐使廃止後も民間貿易続行／朝鮮半島への倭寇侵寇／元寇以後高麗への侵寇は敵国攻撃の様相／倭寇の主力は松浦党ではない／『高麗史』初期の倭寇は肥後、薩摩の武士団か／南朝方制圧下の大倭寇／藤経光の謀殺未遂、高麗禁寇を求む／李成桂、アキバツを撃滅

二 歳遣船交易 …… 612

朝鮮国成立、倭寇懐柔策／歳遣船制度はじまる／朝鮮水軍対馬を襲う／歳遣船を派遣した松浦党

三 倭寇の大陸侵寇 …… 617

元寇への報復／明の太祖、南朝の征西府に禁寇を求める／足利義満、明の国書で日本国王扱い／嘉靖の大倭寇／倭寇姿を消す

第十二項 朝鮮渡来の文化財 …… 623

揚柳観音画像／恵日寺の朝鮮鐘／山田の阿弥陀如来座像／値賀神社の渡来仏

第四節 戦国時代・安土桃山時代 …… 628

第一項 戦国時代 …… 628

一 少式と探題の抗争 …… 628  
洪川満頼九州探題となる／彦島河原の戦い／少式と大内の洪川の戦い／姿を消した松浦党／九州動乱に姿を見せる竜造寺／応仁の乱起り、戦国時代到来／少式与党と竜造寺の争い／大友宗

麟、肥前に触手をのぼす

二 後期波多氏の時代 …… 634

動乱に姿を見せる波多氏／波多氏の活躍／波多氏の後継をめぐる内紛／日高大和守暗殺される／波多と鶴田の闘争／日高甲斐守、岸岳城を奪取／鶴田氏の出自／有浦氏、波多氏の岸岳城復帰を計る／竜造寺隆信、波多氏の岸岳城復帰に力をかす／日高氏、壱岐を占拠す／日高氏の岸岳城奪還作戦と牟方合戦／波多氏、対馬氏と同盟して壱岐奪還を図る／壱岐は平戸松浦領となる

第二項 安土桃山時代 …… 649

一 竜造寺の肥前、肥後制覇 …… 649  
竜造寺と大友の合戦／竜造寺隆信、肥前国の経営に乗り出す／鶴田越前守、竜造寺の軍門に下る／竜造寺隆信、鬼ヶ城の草野鎮永を攻める／竜造寺隆信、肥前全域を旗下に収む／波多鎮、獅子ヶ城の鶴田越前守を奇襲／波多鎮と竜

造寺隆信の養女秀の前との婚姻／竜造寺隆信、肥後国に進出／有浦大和守嫡子至、肥後山鹿で戦死／西光寺は石田に存在していたか／竜造寺隆信戦死す／鍋島信生、竜造寺家の実権を握る／秀吉の島津討伐

二 波多親の苦悩 ..... 664

波多親、秀吉陣に遅参し叱責を受く／波多鎮、上洛を命ぜられる

三 秀吉の朝鮮出兵と松浦 ..... 667

秀吉、名護屋城を築く／フロイスの名護屋城築城記録／名護屋築城は五月／秀吉の軍令／有浦の子女被害を受ける／百二カ所以上の陣屋／秀吉、名護屋入城／有浦大和守ら名護屋に駐在す／有浦大和守ら唐津茶屋を造る／文禄の役、日本軍快進撃／明国の和議使節名護屋に来る

四 波多氏の没落 ..... 681

秀吉の誤解をうけた波多三河守／波多

三河守、所領没収される／有浦大和守・值賀伊勢守ら知行安堵／波多三河守の処分内容／波多三河守の流刑／大友義統、波多三河守と配所で会う／波多氏滅亡にまつわる伝承／波多家再興の伝説／秀の前伝説／広沢局伝説／朝鮮出兵終わる

五 玄海町の松浦党の人々 ..... 697

有浦氏／有浦馱、波多内紛収拾／有浦大和守は波多親の大黒柱／秀吉、有浦大和守を信頼／有浦一族領地の知行安堵／值賀氏／值賀長、知行安堵／值賀氏の子孫／日高氏／日高氏の出自／日高喜、壹岐を占拠す／上場に残る日高氏の遺跡／日高氏と東光寺／寺田氏／馬渡氏／高江城

第五節 中世の松浦地方の文化と産業 ..... 715

第一項 海外文化の門戸・松浦地方 ..... 715

松浦舟／日宋間貿易

第二項 工人の渡来と松浦の産業 ..... 717

大陸工人の連行

第三項 唐津焼の起源と波多氏 ..... 718

唐津焼を茶器に

第四項 肥前鐘と刀工 ..... 720

肥前鐘と山下庄／浜崎で製刀

第五項 神社、仏閣と松浦党 ..... 721

信仰心強い松浦党

第六項 松浦党の生活規制 ..... 723

厳しかった生活規制

第七項 寄船は財源 ..... 726

漂着船を押収

## 第二章 近世のころ

第一節 近世の概説 ..... 729

第一項 江戸時代 ..... 729

第二項 寺沢藩政治 ..... 731

一 元和検地 ..... 731

二 寺沢氏断絶 ..... 732

第三項 唐津藩譜代大名治世 ..... 734

一 大久保氏 ..... 734

庄屋転勤制の始まり

二 松平氏 ..... 735

浦方庄屋の始まり

三 土井氏 ..... 735

砂子の席論

四 水野氏 ..... 736

谷分帳の提出命令／虹ノ松原一揆発生／産業振興に着手

五 小笠原氏 ..... 739

大土井一揆発生／日銭人頭税始まる／御主意楮植え付け

第二節 幕藩体制 ..... 741

幕府と諸藩、ならびに領民／幕府／諸藩／領民

第三節 唐津藩の成立 ..... 744

波多三河守の出征／晋州城攻撃戦／寺沢広高の出現

第一項 寺沢氏の時代

- 一 寺沢氏の祖先 ..... 749
- 二 慶長の役と志摩守 ..... 750
- 三 志摩守と徳川家康 ..... 751
- 四 志摩守の知行石高 ..... 752
- 五 唐津築城 ..... 753
- 六 庄屋と郷足輕 ..... 756
- 七 元和の檢地 ..... 758
  - 伴天連追放／元和檢地の実施と玄海町地域の石盛
- 八 村切りと村請け制 ..... 767
  - 村の成立／庄屋、農民、漁民への生活規制
- 九 地方地行の実際 ..... 770
  - 玄海町地域の知行状況
- 十 志摩守の日常 ..... 776
- 十一 組村制と惣庄屋制 ..... 779

第二項 幕府領の時代

- 一 大久保氏の時代 ..... 794
  - 唐津藩は譜代大名時代となる／大久保氏の由緒／忠職唐津入城
- 二 宗門改めと五人組のこと ..... 796

第三項 寛文、延宝期の農村

- 一 寛文、延宝期の農村 ..... 815
  - 農村五人組の組織
- 二 忠朝の佐倉転封 ..... 820
- 三 幡随院長兵衛 ..... 821
- 第四項 松平氏の時代 ..... 822
  - 松平氏 ..... 822
  - 松平乗久の入部と由緒 ..... 822
- 二 唐津領内大飢きんと高札 ..... 823
  - 天和の大飢きん／高札布達／乗春、乗邑の襲封
- 一 土井氏 ..... 826
  - 土井氏 ..... 826

第一項 寺沢氏の時代

- 一 寺沢氏の祖先 ..... 749
- 二 慶長の役と志摩守 ..... 750
- 三 志摩守と徳川家康 ..... 751
- 四 志摩守の知行石高 ..... 752
- 五 唐津築城 ..... 753
- 六 庄屋と郷足輕 ..... 756
- 七 元和の檢地 ..... 758
  - 伴天連追放／元和檢地の実施と玄海町地域の石盛
- 八 村切りと村請け制 ..... 767
  - 村の成立／庄屋、農民、漁民への生活規制
- 九 地方地行の実際 ..... 770
  - 玄海町地域の知行状況
- 十 志摩守の日常 ..... 776
- 十一 組村制と惣庄屋制 ..... 779

第二項 幕府領の時代

- 一 大久保氏の時代 ..... 794
  - 唐津藩は譜代大名時代となる／大久保氏の由緒／忠職唐津入城
- 二 宗門改めと五人組のこと ..... 796

第三項 寛文、延宝期の農村

- 一 寛文、延宝期の農村 ..... 815
  - 農村五人組の組織
- 二 忠朝の佐倉転封 ..... 820
- 三 幡随院長兵衛 ..... 821
- 第四項 松平氏の時代 ..... 822
  - 松平氏 ..... 822
  - 松平乗久の入部と由緒 ..... 822
- 二 唐津領内大飢きんと高札 ..... 823
  - 天和の大飢きん／高札布達／乗春、乗邑の襲封
- 一 土井氏 ..... 826
  - 土井氏 ..... 826

定免嘆願	838
四 土井氏時代の年貢外負担	838
中間の給与／有浦上から中間に出る	
五 郡奉行與清兵衛のこと	839
名奉行ぶり／民間塾の先達	
六 利益の死と利実の襲封	841
「水のみ百姓」が増加／田地の売買禁止の覚え／利実のお国入り	
七 享保の改革	843
唐津藩の享保改革	
八 享保の飢きん	847
藩主自ら救援に立つ／粥の配給	
九 新田の開発	849
玄海町有浦新田造成など	
十 藩校盈科堂と民間塾	852
藩校の始まり／民間塾の始まり	
十一 利延の襲封	855
土井利延／お国入りを出迎え	

十二 元文の改革	857
十三 利延の死と利里の襲封、庄屋の席争い	863
利里家督相続／町方、村方の上席処遇で問題化／砂子の席論	
十四 延享の儉約令	866
幕府巡見使来る／松浦川はんらん	
十五 土井藩末期の経済事情	868
松浦名物	
十六 転封反対嘆願	870
十七 利里の古河転出	872
社倉の新設	
十八 土井家紋のこと	873
十九 水野氏の時代	874
一 水野氏の唐津襲封と蓮光寺一件	874
土井、水野藩の交代式／一万石幕府領となる／大庄屋の佩刀取りあげ／領内大小庄屋の大集会	

二 水野氏	878
水野氏の来歴	
三 明和の虹ノ松原一揆	880
一人人も集まった松原一揆／一揆勢の要求事項／四日ぶりに解散／漁民も一揆に参加／大庄屋たちが一揆事件の善後策／有浦組日高喜助ら大庄屋、藩当局に交渉／松原一揆落着／富田才治ら自首	
四 水野氏初期の財政事情	896
忠任隠居し忠鼎家督相続／借金を重ねる水野藩／財政自主のため産業開発／松平定信の幕府体制改革	
五 藩政改革	899
巡見使唐津領に来る／美濃、伊勢の河川工事に手伝い／唐津藩政改革に着手	
(一) 農民の生活規制	901
規制示達／庄屋へも行動規制	
(二) 欠米の改革	906

(三) 検見法の改革	907
新しい検見の仕方	
(四) 諸用捨の整理	911
(五) 枴使いの改正	912
唐津藩では納め枴を特製	
(六) 田畑売買地及び質地の調査	914
田畑の永代売買と頼納質禁止／唐津藩で土地移動に対し布達／田地調査買仕法制定	
(七) 新田畑の開発	917
新田開発促進の内達	
(八) 手永の編成替え	919
玄海町区域は北方手永	
(九) 藩財政の収支一覽	920
唐津藩は赤字財政	
六 藩校「経誼館」の開設	922
藩校校長に司馬広人	
七 肥前国産物絵図	925

(一)馬渡島の馬牧(二)鵜飼い漁、ナマコ桁  
 漁(三)勇壮な捕鯨漁(四)布さらし職人(五)鑄  
 物師(六)線香屋(七)イルカ猟(八)マグロ網(九)  
 タイ網(十)唐津海士(十一)石炭と焼き物(十二)紙  
 すき(十三)木崎攸軒

肥前国産物絵図(部分図)……………931

絵図帖一 馬渡島の馬牧図／絵図帖二  
 馬渡島の鹿狩り図／絵図帖三 馬渡島  
 の鷹の雛捕りの図／絵図帖四 生海鼠  
 桁の図／絵図帖五 長芋漁の図／絵図  
 帖六 小川島捕鯨の図／絵図帖七 海  
 女の潜水漁の図／絵図帖八 石炭山の  
 図／絵図帖九 焼き物窯の図／絵図帖  
 十 紙漉きの図

- 八 忠光の襲封とその政治……………942
- 領内巡視／大坂借財一万四千兩／朝鮮  
 通信使対馬に来る／忠光隠居
- 九 忠邦の襲封と浜松転封……………945
- 忠邦入部／忠邦幕閣をねらう
- 第七項 小笠原氏の時代……………947

一 小笠原氏の唐津襲封……………947  
 小笠原長昌／小笠原家の出自

二 水野氏の上知一万石……………948  
 上知したのは新田

三 大渡寄せ(大土井一揆)……………950  
 農民の庄屋不信／農民大土井に集合／  
 不満爆発／大土井一揆の願書

- 四 入国当時の唐津藩財政……………955  
 赤字財政の小笠原藩
- 五 御国益方の設置……………957  
 楮植え付け口達書／楮実買入れ座方
- 六 大坂廻米の減額と銭会所設置……………961  
 賄い金調達／御産物方も設置
- 七 長泰の襲封と財政の深刻化……………963  
 高役金調達困難
- 八 藩の借財三十三万兩……………964  
 領民に助勢頼み申達
- 九 御趣法方と交易所……………968

日銭寸志制の実施／御交易所設置

十日 日銭寸志の撤廃と長会の襲封……………970  
 日銭寸志制に申上／玄海町内の日銭寸  
 志記録／長会の襲封／天災統免

十一 新銭札発行中止……………974  
 新札もくろみ書

十二 長和の襲封と巡見使の西下……………976  
 巡見使

十三 天保の幕領一揆(五ヶ山騒動)……………978  
 巡見使と農民／唐津藩、佐賀藩と天領  
 の農民／金毘羅岳攻防戦

唐津藩、長崎警備に／宗門、人別改め

十七 炭方役所の設置……………991  
 岸山村が石炭の主産地

十八 小笠原長行……………993  
 長行不遇

十九 俵物の請け負い……………995  
 俵屋浦の俵物下請人の松屋良左衛門

二十 嘉永の仕法方さまさま……………996  
 諸浦村に蠟板場があった／玄海町内か  
 らも御用金掘出／赤子救和

十四 長和の「勸農書」布達と長国の  
 襲封……………982

十五 御主意格の植え付け……………986  
 大庄屋へ協力を呼びかけ／夫食米預託  
 と難民救済御用金

十六 宗門、人別改めの変更……………989

二十一 安政の黒船騒動……………999  
 呼子浦へ藩士派遣／コレラ流行、異国  
 船入港／赤木農兵隊配置

二十二 小笠原長行、藩政を見る……………1001  
 藩士の俸給復活／治安要領三件／目安  
 箱／窮乏者救済／大砲鑄造

二十三 長州征伐と唐津藩……………1003  
 唐津藩、小倉へ出兵

二五 戊辰戦争と唐津藩	1005
藩主長国、鍋島直正と同船し上京／小笠原長行、東北へ脱出／唐津藩士次々に戦死	
二六 第二の虹／松原一揆	1008
農民一万人が虹／松原へ	
二七 明治の藩制改革と唐津藩の消滅	1011
長生を長国の養子に／唐津藩職制改革／廢藩置県／唐津藩の消滅	
二八 廢藩による旧藩借金の始末	1014
藩の借金、明治政府に引き継ぐ／領民に金銭負担を強いて消えた小笠原藩	
第四節 唐津藩の政治	1036
第一項 藩政の仕組	1036
役方／郡代／奉行／村方／町方	
第二項 藩の税制	1041
検地／物成／検見／古物成・小物成	
第三項 藩札	1044

七二 錢札	
第四項 藩の警備	1045
番所／遠見番所／台場／高札場	
第五項 往来手形	1047
往来手形	
第五節 唐津藩の交通	1048
太閤道と往還道／宿駅と駄賃／平戸松浦侯、飯屋に上陸し參府／川舟が発達／穀船が発達	
第六節 唐津藩の産業	1056
第一項 農業	1056
新田開発と高い石盛／明治の地租改正による玄海町内の田畑反別／農具と牛馬／肥料	
第二項 漁業	1059
浦分と運上／外津、飯屋浦の諸運上／海士役、釣役、外津にも釣役／干鰯や煎海鼠、外津、飯屋からも	

第三項 製紙	1064
楮植え付け奨励	
第四項 石炭	1066
石炭採掘／炭方役所／飯屋・牟形・大串新田にも炭山	
第五項 焼き物	1068
唐津焼／諸浦窯	
第六項 石工業	1070

付表

上場台地一般気象	52
佐賀県市町村別土地利用状況	55
大字区域別地籍調査後の筆数面積集計表	56
集落別人口調べ	72
市町村人口推移	76
人口動態	79
唐津藩時代別村高表	86
戸数人数など調べ	90
集落別名字数	98
肥前国司等表	340
遣隋使一覧	362
遣唐使一覧	362
松浦諸家系図対照表	430
元寇役前後における松浦諸家	492

第一編 わがふるさと玄海町

年表

藩・県制一覽	1015
唐津藩主名と表石高	1016
唐津藩歴代藩主年表	1018
唐津藩の職制表	1028
玄海町庄屋一覽表	1030

地質年代表	1071
歴史年表	1079

索引

編集あとかき	1195
玄海町史上巻執筆協力者	1199
玄海町史編集委員会	1200
玄海町史編集事務局	1201